

**主 題：自らの永遠を決める選択**  
**聖書箇所：使徒の働き 3章12-26節**

今日は、足の不自由だった一人の男の人が癒されたところを見ていきます。使徒の働き3章ですが、今日私たちが見るのは12節から終わりのところまでです。生まれつき足の不自由だった男が癒されるのですが、このときこのようなことが起こりました。まず、場所はエルサレムの神殿のあるところです。3：1には「ペテロとヨハネは午後三時の祈りの時間に宮に上って行った。」とあります。そして、2節には「すると、生まれつき足のなえた人が運ばれて来た。」と、新改訳聖書第2版には「生まれつき足のきかない男が…」と書かれています。この男の友人たちが彼をこの場所に運んで来たのです。「この男は、宮に入る人たちから施しを求めるために、毎日「美しの門」という名の宮の門に置いてもらっていた。」とある通りです。ここは神殿の丘の東側でオリブ山に近いところです。「美しの門」とありますから、神殿に入って行くところです。異邦人の庭があって、そこから神殿の中に入って行く女性たちの庭や男性たちの庭があるのですが、そこに至る門の入り口がこの「美しの門」でした。ここにこの男の人が毎日運ばれて来て施しを受けていたのです。

何が起こったのか？4、5節を見ると「：4 ペテロは、ヨハネとともに、その男を見つめて、「私たちを見なさい」と言った。：5 男は何かもらえんと思って、ふたりに目を注いだ。」とあります。男はペテロとヨハネを見ても特に何も感じませんでした。同じように、施しを求めたのです。すると、彼らはこのように答えています。6-10節「：6 すると、ペテロは、「金銀は私にはない。しかし、私にあるものを上げよう。ナザレのイエス・キリストの名によって、歩きなさい」と言って、：7 彼の右手を取って立たせた。するとたちまち、彼の足とくるぶしが強くなり、：8 おどりが上がってまっすぐに立ち、歩きだした。そして歩いたり、はねたりしながら、神を賛美しつつ、ふたりといっしょに宮に入って行った。：9 人々はみな、彼が歩きながら、神を賛美しているのを見た。：10 そして、これが、施しを求めるために宮の「美しの門」にすわっていた男だとわかると、この人の身に起こったことに驚き、あきれた。」、この奇蹟を見て人々は大変驚いたというのです。

人々はペテロとヨハネのところにやって来ます。11節には「ソロモンの廊という回廊にいる彼らのところに、やって来た。」とあります。神殿の一番東側のところです。そこに彼らは集まって来て、ペテロたちにこの出来事の説明を求めるのです。12節には「ペテロはこれを見て、人々に向かってこう言った。「イスラエル人たち。なぜこのことに驚いているのですか。なぜ、私たちが自分の力とか信仰深さとかによって彼を歩かせたかのように、私たちを見つめるのですか。」とあります。つまり、人々はペテロたちがこの奇蹟のみわざを為したと思ったのです。そこで、ペテロはこの機会を使ってもっと大切なことに人々の目を向けさせようとするのです。それは「主イエス・キリスト」です。主イエス・キリストに彼らの目を向けさせようとするのです。なぜなら、この奇蹟のみわざはペテロたちではなく主イエスによって為されたから、そのことを明らかにします。

ペテロは特にユダヤ人たちに語るのですが、このようなメッセージを語ったのはペンテコステ以降2回目です。一回目は2章に書かれています。ペテロが教えることは、イエス・キリストの十字架を見たこの人々に対して、そして、死後三日目によみがえって来たイエスを見たこの人々に対して、「いったい、あの十字架に架かりよみがえったイエスはだれなのか？」です。そのことを今一度明らかにします。そしてその後で、この奇蹟を見て驚いている聴衆たちに対して、彼らの罪を明らかにするのです。「主イエスはいったいだれなのか？」を教え、同時に、あなたがたの罪はどれ程重いのかと、そのことを明らかにしようとするのです。

今私たちはそのことを見ていくのですが、なぜ、それが大切なのか？恐らく、彼らと同じように「イエスはいったいだれなのか？」を知らない人たちがこの聴衆の中にいるからです。また、教会に来ると、聖書のみことばから救いについて繰り返し聞きますが、多くの方は自分に救いは必要ではないと思います。自分はそんなに悪いことをしたわけではないし、他の人と比べても自分はまだましな方だと言います。でも、果たしてそうでしょうか？願わくは、今日、みことばを通して神が語るあなたへのメッセージをぜひ聞いていただきたいと思います。

**☆イエス・キリストはいったいだれなのか？**

**1. 神によって栄光を受けたお方 13節**

13節「アブラハム、イサク、ヤコブの神、すなわち、私たちの父祖たちの神は、そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。」、ペテロはまず、この方は「神によって栄光を受けたお方だ」と言います。ここで神に対して「アブラハム、イサク、ヤコブの神、」という説明がされています。それはこの聴衆がユダヤ人だったからです。彼らが敬う神、彼らが伝える神、その神がイエス・キリストに栄光をお与えになった

と、そのことを彼らに伝えようとするのです。なぜ、この神がイエスに栄光をお与えになったのか？理由は簡単です。イエス・キリストの生涯はまさに父なる神のみこころに完全に従っていたからです。すべての点において完全に従っていた。そんな人はこの世に存在していません。イエス・キリストだけがすべてにおいて神のみこころに完全に従われた方です。だから、父は彼に栄光を与えたのだと言います。パウロがそのことについてこのように言っています。ピリピ2：8「自分を卑しくし、死にまで従い、実に十字架の死にまでも従われました。」と。地上にいるときに父なる神が喜ばれることを完璧に為さったイエスは「自ら進んで十字架に掛かる」という父なる神のみこころまでも果たされたのです。そして、ピリピ2：9「それゆえ神は、この方を高く上げて、すべての名にまさる名をお与えになりました。」と、父なる神が喜び称賛した存在であると言います。すべてにおいて完璧に父なる神のみこころに従われたお方、それがイエスだったからです。

## 2. 神のしもべであるお方 13節

このことも13節に記されています。「そのしもべイエスに栄光をお与えになりました。」、私たちが「神のしもべ」ということばを聞いてもピンと来ませんが、このことばはユダヤ人たちにとってはある意味を明確にしました。「神のしもべ」という表現は新約聖書の中では、この使徒の働き3：26、4：27、30、また、マタイ12：18にしか出て来ません。このことばは旧約聖書において「救世主」の旧約の呼び名として出て来ます。ペテロはこの表現を使うことによってイエスがだれなのか、イエスは「救い主・救世主」なのだということを彼らに明らかにするのです。実際に、イザヤ53：11に「彼は、自分のいのちの激しい苦しみのもとを見て、満足する。わたしの正しいしもべは、その知識によって多くの人を義とし、彼らの咎を彼がになう。」と、「わたしの正しいしもべは、」と後に生まれる救世主のことです。預言されていた救世主、私たち罪人を罪から救い出してくださる救世主について「わたしの正しいしもべ」と書かれています。こうして、この方が救世主であることを旧約聖書では「神のしもべ」と表現して使われているのです。

## 3. 聖いお方 14節

14節「そのうえ、このきよい、…」とあります。罪の全くない、すべてにおいて聖いお方です。残念ながら、そのような人はこの地上にいません。「すべての人は、罪を犯したので…」(ローマ3：23)と聖書は言います。このことは自分の心をよく吟味したら分かるはずですが、なぜ、私たちはこんな汚れた正しくない思いを持ってしまうのか？なぜ、悪い考えが自分の心から出て来るのか？そのような自分の心の汚れを見て嘆いている方もいるでしょう。イエスは全く罪のないお方であった、すべてにおいて聖いお方だったのです。

## 4. 正しいお方 14節

「そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、…」、すべてにおいて義なるお方であった、彼が為さるすべてのことは正しいことで罪を犯すこともなかったと言います。

## 5. いのちの君 15節

15節に「いのちの君を殺しました。」とあります。この「君」ということばは「創始者、創作者」という意味で、何も無いところに何かを造り出すことのできるお方ということなのです。「いのち」をお造りになった方、この自然界のすべてのいのちあるもの、それを造るだけでなく、それらにいのちをお与えになった方、私たち人間にいのちをくださったお方、そのお方だとペテロはここで言います。

人々はイエスを十字架に磔にしイエスを殺しました。でも、イエスはその状態で墓の中に居続けることはできなかつた。彼はいのちの源だからです。彼がいのちを造り出したゆえに彼はいのちを持っておられます。それゆえに、彼は死んでもよみがえったのです。だから、イエスだけがこのように言うことが出来ました。「わたしは、よみがえりです。いのちです。わたしを信じる者は、死んでも生きるのです。」(ヨハネ11：25)と。

なぜ、私たちクリスチャンは肉体的に死んでも必ずよみがえって、神とともに過ごすという確信を持っているのでしょうか？すべてはイエス・キリストが死からよみがえって来たことによるからです。イエス・キリストのからだはまだイエス・キリストの墓というところに収められているのなら、私たちはそのような希望を持つことはできません。でも、イエス・キリストは敢然と死から肉体をもってよみがえって来られた。多くのクリスチャンたちがそれを目撃し、彼らはこの真実をいのちがけで語って来ました。イエス・キリストは死からよみがえることによって、いのちの源である神であること、いのちを造り出すお方であるということを明らかにしたのです。

このよみがえりに関してペテロは15節の後半でこのように言っています。「しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」と。今話したように、だれかがそのようなことを話しているのではありません。実際に、イエス・キリストが死から敢然と肉体をもってよみがえって来たことを目撃した人たちがたくさんいるのです。Iコリント15：6に「その後、キリストは

五百人以上の兄弟たちに同時に現れました。その中の大多数の者は今なお生き残っていますが、すでに眠った者もいくらかいます。」と書かれている通りです。その証拠に、彼らは「このイエス・キリストが神だ」と言ってそのためにいのちを捨てていったのです。彼らが口々に語ったことは「私たちはよみがえったイエスに出会った。彼とともに話をし、彼のからだに触れ、彼とともに食事をした。」です。イエス・キリストはいのちの君です。いのちの源であって、いのちを造り出すことができるお方です。

## 6. 全能のお方 16節

16節をご覧ください。「そして、このイエスの御名が、その御名を信じる信仰のゆえに、あなたがたがいま見ており知っているこの人を強くしたのです。イエスによって与えられる信仰が、この人を皆さんの目の前で完全なからだにしたのです。」とあります。ペテロが言いたかったことは、この人の癒しはこの人のイエス・キリストを信じる信仰のゆえであるということです。「イエスの御名が」と書かれています。「御名」とは私たちが言う姓名のことではありません。名字と名前ではなく「御名」とは「その人自身」を指しています。ここでは「イエスの御名」、つまり、「イエスご自身が、このお方が」と言っています。この方がイエスを信じる人に対して、このようなみわざを為されたと教えるのです。つまり、ペテロは、今あなたがたが見た通り、この足の不自由な人がこうして癒されたことは、まさに、主イエスにはこのような奇蹟を為す力がある、彼はどんなことでもお出来になる神だということを明らかにしたのです。

こうして、ペテロは六つのことを語りました。聴衆たちに対して「イエスがだれなのか？」ということ明らかにしたのです。その上で、17節から彼らの罪について語っていきます。

## \* 人々の罪について 17節

17節「ですから、兄弟たち。私は知っています。あなたがたは、自分たちの指導者たちと同様に、無知のためにあのような行いをしたのです。」、十字架にイエスを架けた一連の出来事は、あなたがたが無知だったから、つまり、何も知らなかったからだと言うのです。あなたがたはイエスがだれであったか知らなかったし、また、自分たちのやっていることが神の前にどれほど大きな罪かを知らなかったと言います。そこでペテロは、あなたがたが知らずに十字架に追いやったイエスがいったいだれなのかを明らかにするのです。自分たちはそんな酷いことをしたと思っていないかもしれない、恐らく、だれもそのように思っていなかったでしょう。そこで彼らに対して「あなたがたは大変大きな罪を犯したのだ」と、そのことを明らかにするのです。もう一度3：13-15を見ましょう。「:13 …あなたがたは、この方を引き渡し、ピラトが釈放すると決めたのに、その前でこの方を拒みました。:14 そのうえ、このきよい、正しい方を拒んで、人殺しの男を赦免するように要求し、:15 いのちの君を殺しました。」と、しかし、神はこのイエスを死者の中からよみがえらせました。私たちはそのことの証人です。」、どんな罪だったのか？

### a. 無罪の主イエスを殺した

### b. 人殺しの男を赦免するように要求した

罪の全くないお方を十字架に架けるようにと要求し、罪を犯し人を殺して捕えられた男をこのお方の代わりに釈放するようにと要求したのです。そして、彼らが「十字架に架けろ」と叫んだ人物は罪のないお方で、すべてにおいて正しいお方、いのちの源であるお方だったのです。ペテロが訴えることは「あなたがたが十字架に架けたあのイエスは神であり創造主であり、そして、全く罪のないお方だ。その聖い正しいお方をあなたがたは十字架に架ける要求をし彼を殺した。」ということです。

皆さん、私たちがこんなことを聞いても、多くの人たちは遠い世界の話であって自分とは全く無縁のことだと思ってしまうのでしょうか？二千年前の話です。しかも、場所はベツレヘムとかナザレとかエルサレム、今私たちがニュースで聞く注目のイスラエルです。そんな遠いところでの大昔の出来事がなぜ今の私に関係しているのか？と思います。でも、大いに関係しているのです。なぜなら、あなたはいろいろな機会に、イエス・キリストがあなたの身代わりになって十字架に架かったということを聞きました。あなたのことを愛してあなたの罪を赦してくれるそんな神がいることを聞きました。でも、聞いてもあなたは無関心でしょうか？そのことを聞いて、では、あなたはその神に感謝しますか？喜んでその方を受け入れてその方を信じてその方に従って行こうなどとしますか？殆どの人たちはこのような神がいることを聞いても関心を払いません。その方を愛そうともしません。

この群衆たちの多くも、彼らが直接要求したのではなかったかもしれない、そういう人たちもいました。ただ群集心理で洗脳された者たちもいたでしょう。ただ何となくみんなが集まっているからそこに加わった野次馬的な存在もいたでしょう。でも、彼らに共通していたことは、だれ一人として十字架に架かるイエスに対して「これは不当である。この方は無実の方であって十字架に架かるような罪を犯してはいない！」と叫ぶ者たちはいなかったのです。

今と同じです。今のあなたと全く同じです。イエスが十字架に架かろうと知ったことではない、関係ないと言います。ですから、確かにペテロは、その当時の人々に対して「あなたがたは神に対して大変大きな罪を犯した」と明らかにしたのですが、このことは私たちも同罪だということです。あなたもこ

の神に対して心を開いていない、あなたもこんなすばらしい神がいるのにその方に感謝もしていないからです。ペテロはこの聴衆たちに対して「あなたがたは神の前に大きな罪を犯した」と、そのことを明らかにし、そして、その上で彼らに罪への訓戒、忠告を与えています。

#### \* 彼らへの訓戒・忠告

19節「そういうわけですから、あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」と、ペテロは、あなたがたは神の前に大きな罪を犯したゆえに、その罪をぬぐい去っていただかなければならないということを明らかにしているのです。それはあなたも同じです。もしかすると、あなたは「私は全く何も知らなかった」と言うかもしれません。「知らなかったから」と言って責任を逃れられることができるわけではありません。知らなくても、今知ったあなたが取っている選択は、この神に背を向け続けるという選択です。ペテロは「知っていようと知っていまいとそれには責任がある」と言います。

皆さん、聖書はあなたに「イエス・キリストは、あなたの罪を負って十字架で死んだ」と教えます。ということは、もうすでに、あなたは神の前に罪を犯しているのです。それが証拠に、あなたを造ってくれた神を愛することもないし、感謝することもないしその方に従って行くこともしません。それは罪です、皆さん！救い主がなぜ来たのか？あなたが救いを必要としているからです。神に逆らっているあなたは、でも、あなたはそんなことはしていないと思っているかもしれませんが、聖書が言うことは「あなたは逆らっている」です。そして、あなたがもう少し自分の心をよく見ると、その心の中に残念ながら汚れが潜んでいることをあなたはご存じです。それでいて、神のことを聞いても聞いても、あなたはその神を信じてその神に感謝をしようとしません。それはあなたの心が神に対して閉ざされていて、あなたが神を拒んでいることを明らかにしているのです。

いいですか？救い主が来てくれたということは、神はあなたにメッセージを送っているのです。「あなたには救いが必要だ」ということを…。そして、あなたは自分の心が汚れているということを知っています。救いが必要であることも感じているかもしれません。でも、それを認めていないのです。だから、神のあなたへのメッセージを聞かなければいけないのです。「あなたには救いが必要だ」ということを…。ペテロが教えてくれたように、19節「あなたがたの罪をぬぐい去っていただくために」、これはあなた自身の行為ではありません。あなたに対してだれかがこのような行為をしてくれるのです。だれかによって「ぬぐい去っていただく」のです。そのことをしてくださる唯一のお方が「救い主であるイエス・キリスト」です。

この「ぬぐい去って」ということばに関してもう少し見ていきます。コロサイ人への手紙にも同じことばが使われていますが、日本語訳は違います。コロサイ2：14「いろいろな定めのために私たちに不利な、いや、私たちを責め立てている債務証書を無効にされたからです。神はこの証書を取りのけ、十字架に釘づけにされました。」「債務証書を無効にされた」とあります。私たちはお金を借りれば当然その支払いを要求されます。レストランで食事をすれば請求書が来ます。罪を犯した私たちに対して神は「あなたは自分の死をもってしかこの罪の代価を支払うことはできません」と言われ、その債務証書が突きつけられたのです。神に逆らって来た私たちすべての人間は、例外なく、神に逆らって来たゆえに、神はあなたに自分のいのちをもってしか罪を贖うことはできない、償うことはできないと言われるのです。

ここには「無効にされた」と書かれています。この「無効」と「ぬぐい去る」は同じことばが使われています。これは「その記憶や経験というすべてのものを拭き取る」という意味です。実は、この当時、紙というのは大変高価なものでした。今の私たちが手にする紙とは価値が違いました。というのは、皆さんも「パピルス」を聞いたことがあるでしょう。これはガマの一種の植物の茎で造られたものです。また、動物の皮で造った羊皮紙も存在していました。この二つがその当時の人々の紙だったのです。どちらも大変高価でした。無駄にはできなかつたのです。昔のインクと今の私たちが使うインクとは違つたのです。昔のインクには酸が含まれていません。ということは、書いてもその紙の中に浸透することがなかつたのです。あくまでも表面に留まるのです。ですから、何かを書いてそのまま置いておくと、そこに書かれた状態で残ります。でも、先ほど話したように、紙は大変貴重だったので、それをもう一度使いたい時には、スポンジをもってその文字を拭けば全部消えて無くなつたのです。そのことを言っているのです。あなたがたの罪はすべて神の前に明らかです。でも、神はその罪のリストを、丁度、この紙に書かれたインクを消すようにすべて消してくださると、そのことをペテロはここで言っているのです。罪の記録を完全に消してしまう、完璧な方法で神はそれをすべて消してくださる。ペテロが言いたいことは、神は私たちのすべての罪を完全に消し去ることがお出来になる、つまり、完全にその罪を赦すことができるということです。そのことを教えるのです。

皆さん、私たちは毎日の生活の中で神が喜ばれないことを平気で行っていきます。聖い正しい神は、聖さ正しさにおいて完璧であるようにそのことを要求されますが、私たちはだれ一人そんな生活ができて

いません。ですから、神に逆らっているのです。神が憎まれることを行っているのです。当然、神からさばきを受けてしかるべきです。神からのろわれてしかるべき存在です。でも、イエス・キリストはあなたに代わってのろわれた者となって十字架に架かり、イエス・キリストはあなたのすべての罪を負って十字架でああなたの代わりにさばきを受けてくださった。ここまでしてこの主は、あなたのすべての罪をぬぐい去ろうとしてくださったのです。ペテロがいうことは、「この救い主であるお方、イエスをあなたがたは十字架につけた。あなたがたが殺したこのイエスは私たちの罪を完全に赦すことのお出来になる救い主だ。その方をあなたがたは十字架につけた。」ということです。あなたが嫌っているイエス・キリスト、あなたが心開いて信じようとしないうイエス・キリスト、そのお方はあなたを救うために来たのです。でも、あなたはその方に対して背を向けている。

そこでペテロはこう言います。19節「…ぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」と。まだ、あなたには救いのチャンスがあると言っているのです。まだ、あなたには罪をぬぐい去っていただくそのチャンスがあると。どうすればいいのか？「悔い改めて、神に立ち返りなさい」と、ペテロは「いつまで神に逆らい続けているのか、その罪に気付いてその罪から離れて、そして、神を信じて従っていくこと」と言います。あなたの罪を赦すことができるのはただ一人です。あなたの身代わりとなったイエスだけです。そのイエス・キリストをあなたの神として信じて、救い主と受け入れて、その方をあなたの主としてこの方に従って行こうとする、その信仰によってあなたには救いが与えられるのです。

ペテロは「罪をぬぐい去っていただくために、悔い改めて、神に立ち返りなさい。」と言いました。多くの人は自分が行っているその罪に対して「私は間違っていた」と気づいて正しいことを行っていこうと反省をすることはあります。でも、ここで言われている「悔い改め」は反省以上のものです。あなたが罪に対して背を向け、そして、神に対して心を開いて神を受け入れて従って行こうとすることです。今まで歩んで来た歩みが間違っていたことに気づいて、これから正しい歩みをしていこうとすることです。それはどのような歩みか？あなたの救い主を受け入れてその方に従って行くという、正しい新しい生き方です。あなたの罪はきれいに洗われていますか？ぬぐい取られていますか？神があなたのすべての罪を洗い清めてくださったのです。聖書は私たちに「救いは可能だ」と言います。なぜなら、イエス・キリストはその目的のために来てくださったからです。

## 7. 約束の救世主である

20-26節には祝福のことが書かれています。20節「それは、主の御前から回復の時に来て、あなたがたのためにメシヤと定められたイエスを、主が遣わしてくださるためなのです。」「回復の時」とあります。これは「祝福」のことです。イエス・キリストが再びこの世に再臨され、そして、すべてのことを新しくされるということです。聖書は私たちに「千年王国」があると保証しています。イエスが地上に帰って来るとすべてのものが新しくされ、イエスが王として君臨されると、そのときのことです。

21節「このイエスは、神が昔から、聖なる預言者たちの口を通してたびたび語られた、あの万物の改まる時まで、天にとどまっていなければなりません。」と。ペテロは再びこの聴衆であるユダヤ人たちに対して「預言者たちの口を通して…語られた」と言います。つまり、あなたがたが見たあのイエス・キリストは、実は預言されていた救世主だったということを、ペテロはこの後、モーセとサムエルを通して明らかにするのです。モーセやサムエルは人々が承知していた預言者だったからです。

22節「モーセはこう言いました。『神である主は、あなたがたのために、私のようなひとりの預言者を、あなたがたの兄弟たちの中からお立てになる。この方があなたがたに語ることはみな聞きなさい。』と、モーセが申命記18章で語ったことをここに引用しています。モーセのような預言者がもう一人立ち上げられる。だれのことか？イエスです。モーセはあの奴隷であったイスラエルの民をそこから救い出しました。「ひとりの預言者」はモーセのようにエジプトの奴隷から人々を解放するために来るものではありません。罪の奴隷である人々をその罪から解放するために来てくださるのです。イエス・キリストはまさにそのために来てくださったのです。だから、「罪をぬぐい去っていただく」のです。この方が罪を完全に清めてくださる。罪の奴隷であるあなたを罪から解放してくださるのです。こうして、モーセが語ったことを引用して、ペテロはこの約束が成就した、その方は「イエスである」と明らかにします。

続けて、23節「その預言者に聞き従わない者はだれでも、民の中から滅ぼし絶やされる。』と、確かに、後に生まれて来る預言者イエスは自分と同じように人々を解放してくれる方だが、違う所がある。それはこの方は解放するだけでなく罪のさばきをもたらず方だと言います。確かに、私たちは黙示録を見たときに、イエス・キリストによってすべての罪人がその罪をさばかれることを知っています。イエス・キリストは救い主であるとともに罪のさばき主です。

ここにおられる皆さんは、最初から見て来たようにどちらかです。あなた自身の罪をあなた自身が精算するのか、それとも精算してくださるといふイエスに信頼をおいて、この方が為してくださる精算を受け入れるかです。罪を犯した者たちは必ず神のさばきを受ける訳で、それは永遠のさばきです。逃れ

ることができない永遠の地獄がそこにあるのです。そして、私たちが神に対して犯して来た罪は、まさに、地獄にふさわしいものです。そのすべてを知った上で、神はあなたの罪をぬぐい去るために来てくださり、あなたのさばきを代わりに受けてくれたのです。彼があなたの受けなければならないさばきを受けてくださった。こうして、あなたの罪は赦されるということを明らかにされたのです。でも、それでも先程から見て来たように、多くの人たちはその主に背を向け続けているのです。

先日ニュースで、あのオウムの流れのグループに毎年100人近い信者が加わっているという報道がありました。今でもなお…です。あのサリン事件を起こしたその系列のグループに年間100名も…。いったいどれだけの人が救い主に立ち返ったのでしょうか？悲しいことに、多くの人たちは何が真実なのかを分かっていません。永遠の地獄に導く、そのようなところへ、その教えに心を開いてどんどんその中を歩み続けています。主イエス・キリストが来てくださって完全な救いを備えてくださったのに、その方の許に出て来ようとしない。その中にあなたはいませんか？主に背を向け続けている人、あなたがこの救い主を拒むならあなた自身が罪のさばきを受けます。主はあなたのすべての罪を明らかにし、そして、いかにあなたが地獄にふさわしいのかを明らかにし、そして、あなたはそこで永遠を過ごすことになるのです。ペテロはそのことを明らかにします。主イエスはさばき主だと。

次の24節には「また、サムエルをはじめとして、彼に続いて語ったすべての預言者たちも、今の時について宣べました。」とあります。サムエルは、ダビデに油を注いで彼を王とし、そして、彼の王国についての預言をするのです。そして、その王国はこのイエス・キリストによって成就します。Ⅱサムエル記7：12-13「12 あなたの日数が満ち、あなたがあなたの先祖たちとともに眠るとき、わたしは、あなたの身から出る世継ぎの子を、あなたのあとに起こし、彼の王国を確立させる。：13 彼はわたしの名のために一つの家を建て、わたしはその王国の王座をとこしえまでも堅く立てる。」と。先程も話したように、イエスが地上に帰った後、彼は千年の王国を築くわけです。ペテロは、あのサムエルが与えた預言に関してもそれらはすべてイエス・キリストによって成就すると言ったのです。

25節には「あなたがたは預言者たちの子孫です。また、神がアブラハムに、『あなたの子孫によって、地の諸民族はみな祝福を受ける』と言って、あなたがたの父祖たちと結ばれたあの契約の子孫です。」とあります。これはアブラハムに与えた契約のことです。神はどのような契約をアブラハムと結んだのでしょうか？創世記22：17-18に「：17 わたしは確かにあなたを大いに祝福し、あなたの子孫を、空の星、海辺の砂のように数多く増し加えよう。そしてあなたの子孫は、その敵の門を勝ち取るであろう。：18 あなたの子孫によって、地のすべての国々は祝福を受けるようになる。あなたがわたしの声に聞き従ったからである。」とある通りです。「あの空の星を見てご覧なさい。あなたの子孫はこのようになる。」と、これはユダヤ人だけでない異邦人を含めたすべての人たちが祝福を受けるという約束です。でも、その約束はアブラハムよっては成就しませんでした。しかし、イエス・キリストによって成就したのです。なぜなら、イエス・キリストはユダヤ人だけでなく、異邦人である私たちにも罪からの解放、救いを与えてくださるからです。

こうして、神のアブラハムに与えられた約束はイエス・キリストによって成就し、モーセに与えられた約束も成就し、そして、あのダビデに与えられた約束もすべてイエス・キリストによって成就したのです。ゆえに、このような約束のことをよく知っているユダヤ人たちに対して、この預言のすべてはただ一人の方によって成就する、それがこのイエスであるとペテロは語るのです。

その後で26節には「神は、まずそのしもべを立てて、あなたがたにお遣わしになりました。それは、この方があなたがたを祝福して、ひとりひとりをその邪悪な生活から立ち返らせてくださるためなのです。」と書かれています。「そのしもべ」とはイエス・キリストのこと、イエス・キリストを立ててくださり、そして、遣わしてくださったのです。何のために？この方が、このイエスがあなたがたを祝福し、ひとり一人をその邪悪な生活から立ち返らせて神の祝福に招くためです。

神はあなたの罪をぬぐい去るために救い主を送ってくださり、そして、この救い主によってあなたは神の祝福に与るのです。生まれ変わるのです。罪の奴隷であったあなたがそこから解放されて、神を喜ばせる者として生きていくことができる。そういう人へと生まれ変わらせるその力をもっておられる方、その働きのために遣わされたお方、それがこのイエスだったということです。

皆さん、聖書の中に赦されない罪が存在していることが記されています。マタイ12：31にこのように書かれています。「だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒流も赦していただけます。しかし、御霊に逆らう冒流は赦されません。」と。あなたの犯したすべての罪は赦していただけます。救い主はちゃんと赦してくださる。ただ赦されない罪がひとつあります。それはこの「救いを拒み続ける」という罪です。それは赦されません。どういうことか？神はあなたに救いを与えてくださる、でも、あなたがそれを拒み続けているならどのようにして救いに与ることが出来ますか？どのようにして赦しをいただきますか？なぜなら、あなたがそれを拒んでいるからです。

あなたが今日覚えなければいけないことは、このペテロが聴衆に語ったことと同じです。あなたはイエスがだれであるのかよく知らなかった。彼が教えてくれたように、この「イエスは神だ」ということ、しかも、最後にこの箇所を見たように、この方こそが預言されていた救世主であること、そして、この方はご自分のいのちを捨てることによって完全な救いを備えてくださった。あなたなのです！ご自分の永遠を決定するのは！あなたが永遠をどこで過ごすのかを決めるのはあなたです。神に逆らい続け来たあなたが今向かっているのは永遠の地獄です。でも、神はあなたをあわれんでこの機会をくださり、そして、あなたに救いを与えよう、あなたのすべての罪をぬぐい去ろうとくださっています。なぜ、神を拒み続けるのですか？なぜ救いを拒み続けるのですか？

ぜひ、覚えてください。その罪には報いが伴うということを。神に逆らうことを止めて、今日、あなたの身代わりとなって死んでよみがえったイエス・キリストを心から受け入れることです。この方だけが、あなたを罪から救うために、あなたのすべての罪をぬぐい去るために送られてきた約束の救世主です。彼は宗教家ではありません。彼は救い主なのです。その方の許に救いを求めて出て来ることです。

今日、あなたにこの救いが与えられますように、そして、そのことが今日あなたの身に起こることを心から願っています。